



ろっぴやくだわら 宮司村の六百俵

かつての宗像郡宮司村は、人々が助け合う品行方正な村として、福岡藩から褒美を贈られました。



▲宮地嶽神社境内にある「六百俵之碑」

江戸時代の人々は、干ばつや冷害などによる飢饉きんの発生と隣り合わせでした。そのため、福岡藩から何度となく儉約令が出されていました。

現在の宮司地区を中心とする宮司村は、100戸ほどの集落でした。海辺で作物を育てるのが難しい土壌にも関わらず、昼夜を問わず農業に励んでいました。

宮司村の人々は真面目に働き続けます。あるときは、飢饉で苦しめられた年も、宮司村は定められていた年貢を納めました。またあるときは、干ばつ対策のため、村中の全ての大人が協力し、藩の力を借りることなくため池を作り上げました。

日頃の正しい行いに感心した福岡藩の家老久野下記げきは、1年間の年貢として定められていた873俵に迫る600俵を、宮司村に贈りました。

